

第7回食品ロス削減のための商慣習検討専門部会の概要

1 日 時 令和5年2月15日(水) 14:00~15:00

2 場 所 富山県民会館4階401号室

3 議 事

(1) 食品ロス削減のための商慣習見直しに関する国の検討状況等について

(2) 食品ロス削減のための商慣習見直しに関する事例紹介

(3) 食品ロス削減のための商慣習見直しに向けた取組みについて

① R4年度取組み

② R5年度取組み

(4) 意見交換等

4 主な意見の概要

<商慣習見直しに向けた取組事業者の拡大方法、取組事例等>

- ・ 少量多品種化という流れの中で、需要予測、販売計画の見直しにより発注精度を上げる活動を行っている。
- ・ AIによる発注を一部導入している。
- ・ 賞味期限延長の取組みを進めている。
- ・ 廃プラスチックの減容化の流れと賞味期限延長への包装資材の強化が相反することもあり、なかなか取組みが進まない。
- ・ 小分け商品やイベント商品(恵方巻き、クリスマスケーキ等)の予約販売により、売り切りに取組んでいる。
- ・ ネットを利用し、余った商品を訳あり品として販売している。
- ・ 商慣習見直しにより、製造業者にとってのメリットが多い。

<商慣習見直しに向けた取組内容の消費者への周知方法等>

- ・ 消費者への啓蒙については、繰り返し行っていかなければなかなか定着しない。定期的に広報誌等により啓蒙活動を行っており、その効果が出てくるとよいと思う。
- ・ 事業者は取組みを十分に行っていると思うが、消費者への浸透が大きな課題である。
- ・ 「手前どり」については、県のパンフレットや店舗での啓発により、浸透してきていると感じる。さらに進めていきたい。
- ・ チラシの配布、ワークショップ、サルベージパーティー等の取組みを行っている。

<未利用食品の有効活用等>

- ・フードバンク活動団体や子ども食堂への食品提供の際に配送コストがかかるため、配送体制の構築が大切である。
- ・フードバンクについては、資金、機動力、食品保管用倉庫が不足しており、頻度で補うしかない。食品保管用倉庫については、米を取り扱っている業者や運送業者の一角を保管用倉庫として提供いただく例があり、このようなことについても、行政で幅広く進めていただきたい。
- ・食品の提供先として、フードバンク活動団体や子ども食堂だけでなく、市町村の社会福祉協議会へも相談すればよいと思っている。
- ・コスト削減のために有人ではなく無人でのフードドライブを行い、効果が出ている。
- ・フードドライブを定期的に行いたい。